

ENGLISH EDUCATION

仙台第三高等学校 教育 F1班

【背景】

グローバル化が進む現代社会において、英語力は欠かせないものになった。しかし、EF FPIにおいて2017年、80か国中37位である。

アジアでは9位で、先進国としては十分とは言えない。そして、TOEFLの日本人受験者の平均得点は、アジア諸国の中では最低である。

このような状況において、この研究ではどのように学校教育の中で英語力を伸ばしていけるのか、英語力が高いとされる国と比較しながら、日本の英語教育のより良い発展に向けて考察していく。

【英語能力を向上させるための対策】

・教科書の文法の説明が簡易的なため、文法書を用いて解説する
→ **基本的なスキルを固める**

・スピーキング力向上のために話す機会を増やす(スピーチ、ディスカッションなど)

→ **即興で話すことに慣れる**

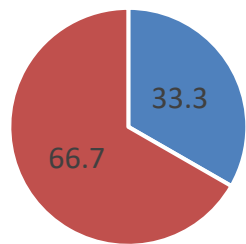
・リスニング力向上のためにCD/DVD(会話、文章の音読、映画)を用いる
→ **自然な表現・発音を学ぶ**

【調査方法】

- ・調査テーマ 英語に関する意識調査
- ・調査対象 アンケート①→高校二年生74名 ②→同43名
- ・調査方法 アンケート

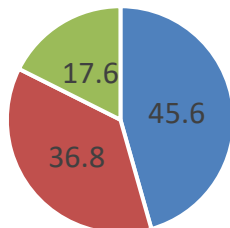
【アンケート① 結果】

(1) 英語に対する意識



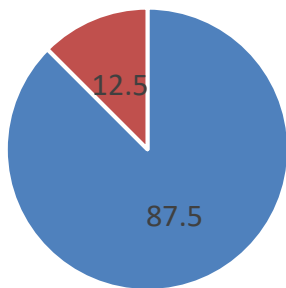
■ 得意 ■ 苦手

(3) 実践している英語の勉強方法



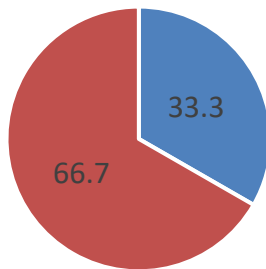
■ 授業
■ 問題集や単語帳等
■ その他(洋楽、洋画など)

(2) 英語が必要だと思うか



■ 思う ■ 思わない

(4) 現在学校以外で英語に接する場面はあるか



■ ある ■ ない

【アンケート② 結果】

(1) 苦手意識の原因(記述)

- ・語彙力が足りない
- ・リスニングが難しい
- ・日常で使わない
- ・即興で話せない など

(2) 英語の授業以外で英語に触れる場面

- ・洋楽
- ・洋画
- ・YouTube
- ・海外旅行に行ったとき など

(3) 英語力を向上させるために授業では何をすべきか

- ・会話
- ・文法をしっかり教える
- ・音読
- ・ALTの授業を増やす など

【考察】

【日本】

- ・英語に苦手意識を持っている
- ・英語教育は小学五年生から
- ・日常生活で英語を使用しない

【英語ができる国】

- ・英語話者50%以上
- ・英語教育は小学一年生から
- ・日常生活でも英語を使用する

日本は他の国と比べて英語を使用する機会が少ない

【世界の英語教育】

*EF FPIにおいて

オランダ	英語能力世界1位 オランダ語が英語に近い 幼少期から英語教育が行われている 英語話者 90%
シンガポール	英語能力アジア1位 小学校一年生から英語教育が行われている 多民族国家 英語話者 80%
フィンランド	英語能力世界6位 会話文では口語的な表現も学んでいる 映画吹き替えがない→字幕で見る 英語話者 70%

【アンケート結果から】

- ・英語に苦手意識を持つ人が多い
- ・英語を必要だと考えている
- ・授業以外の場面において英語を用いる機会が少ない
- ・聞く、話すことに苦手意識を持っている

参考文献

- 1) 自治体国際化協会、「シンガポールの英語教育について」(2015年5月7日)<http://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/416.pdf>(検索日2018年9月20日)
- 2) 目白大学人文学研究、栗原浪絵、「オランダの小学校における英語教育の特徴とその意味」(2014年)
- 3) 実川真由/実川元子、「受けてみたフィンランドの教育」(2007年)